資料２－①

地域研修の実施状況

1．各地域の検討・実施状況

1. 各地域の検討・実施状況

各地域の検討・実施状況一覧

:実施済

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
応募団体	富山県	茨城県	山梨県	新潟県	静岡県	奈良県	熊本県	和歌山県	福島県	長崎県	京都府	山形県	徳島県	石川県	高知県	愛知県
地域	⑥北陸	④関東	③甲信越	③甲信越	⑤東海	⑦近畿	⑩九州・沖縄	⑦近畿	②東北	⑩九州・沖縄	⑦近畿	②東北	⑨四国	⑥北陸	⑨四国	⑤東海
R7希望テーマ	応援・受援	避難所開設・運営	避難所開設・運営	生活再建支援	被災者支援	災対本部運営	物資調達・輸送	応援・受援	応援・受援	応援・受援	応援・受援	災対本部運営	災対本部運営	応援・受援	防災全般（応援・受援）	物資調達・輸送
事前説明会	3/13（全地域合同で実施）															
地域検討会第1回	4/15（火）	3/27（木）	4/16（水）	4/16（水）	4/18（金）	4/23（水）	4/22（火）	4/30（水）	5/19（月）	6/3（火）	6/16（月）	7/1（火）	7/22（火）	8/4（月）	9/4（木）	9/12（金）
地域検討会第2回	4/30（水）	4/11（金）	4/30（水）	4/30（水）	5/7（水）	5/9（金）	5/12（月）	5/21（水）	6/2（月）	6/27（金）	7/10（木）	7/30（木）	8/8（金）	9/8（月）	9/22（月）	9/29（水）
座学 実施時期	5/1～5/29	5/19～6/12	5/28～6/25	6/13～7/9	9/1～9/29 11/1～11/27	6/24～7/23	7/3～7/29	7/7～8/5	7/24～8/21	8/12～9/10	8/27～9/24	9/17～10/5	10/9～11/5	10/27～11/24	11/20～12/18	11/20～12/22
演習 開催形式	集合	集合	集合	集合／WEB	集合／WEB	集合	集合／WEB	集合	集合／WEB	集合	集合	集合	集合	集合	集合	集合／WEB
演習 実施日	5/30（金）終日	6/13（金）終日	6/26（木）終日	7/10（木）午後	11/28（金）終日	7/24（木）終日	7/30（水）終日	8/6（水）終日	8/22（金）終日	9/11（木）終日	9/25（木）終日	10/6（月）終日	11/6（木）終日	11/25（火）終日	12/19（金）終日	12/23（火）終日
地域検討会第3回	6/6（金）	6/20（金）	6/26（木）	7/10（木）	11/28（金）	7/24（木）	7/30（水）	8/7（木）	8/22（金）	9/18（木）	9/25（木）	10/6（月）	11/6（木）	11/18（火）	12/19（金）	12/23（火）
主な対象者	富山、石川、福井の県・市町村	市町村防災（県はオブザーバ参加）	県・市町村防災	県・市町村	県・市町村	県・市町村防災	市町村物資	県・市町村防災	県・市町村	県・市町村	京都、大阪の府・市町村	県・市町村	県・市町村防災・福祉	石川、富山、福井の県・市町村	県・市町村	県・市町村防災
修了者数（うち市区町村職員）	58人（20人）※1	50人（50人）	47人（31人）	49人（41人）	修了者確認中	49人（24人）	31人（31人）	48人（21人）※2	33人（27人）	19人（13人）	26人（14人）※3	43人（37人）	40人（18人）	修了者確認中	研修実施中	研修実施中
担当コーディネーター ※敬称略	井ノ口	黒田（稲垣）	田村	佐藤和（田村）	小山	井ノ口	国崎	越山	佐藤翔（丸谷）	国崎	木村	田村	紅谷	大原	鍵屋	小山
地域研修実施年度	なし	なし	R2	なし	R1	R1・3・4・5・6	R1	なし	R3	なし	なし	なし	R5・6	なし	R4	R6

※１：富山開催は石川県・福井県も参加。（）は富山県内の参加市町村の職員数を掲載。
※２：国の機関として、自衛隊、海上保安庁も参加。
※３：京都開催は京都府のほかに関西広域連合（大阪府、堺市）も参加。（）には京都府内の参加市町村のみの職員数を掲載。

報告〔和歌山県①〕オンデマンド講義カリキュラム

研修のテーマ　受援体制（応援職員・支援物資の受入、受援計画、被災地支援 等）

オンデマンド講義：7/7（月）～ 8/5（火）　演習：8/6（水）集合形式　コーディネーター：越山委員

応援・受援のカリキュラム（案）を基に、県の要望等に合わせて次の点を変更した。

●：受講必須　◇：受講任意

	単元名／講師			時間
	災害対応業務全般			
1	防災行政概要	内閣府	◇	20分
2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇	15分
3	防災計画の概要	内閣府	◇	15分
4	地域の災害特性	熊本 地方気象台	●	60分
	応援・受援の基礎知識			
5	受援体制と受援計画の概要	内閣府	●	15分
6	地方公共団体間の相互応援と受援体制	内閣府 総務省 大野城市	●	130分
	受援対象業務の概要			
7	避難所の開設・運営の内容	内閣府	●	15分
8	災害廃棄物処理の概要	環境省	●	11分
9	被害認定調査・罹災証明書の概要	内閣府	●	6分
10	災害ケースマネジメントの概要	内閣府	●	16分
11	仮設住宅の供給の概要	内閣府	●	15分
12	災害ボランティア	東北大学 丸谷浩明 ﾚｽｷｭｰｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞ 栗田　暢之	●	36分
13-1	被災者生活再建支援制度の概要	内閣府	●	11分
13-2	災害弔慰金・災害援護資金の概要	内閣府	●	14分
	物資の調達・輸配送			
14	国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	内閣府	◇	15分
15	救援物資ロジスティクス演習	内閣府	◇	30分
16	インフラ復旧の概要	国土交通省	◇	15分
17	救援物資の調達	コメリ災害 対策センター	●	35分
18	救援物資の輸配送	佐川急便	●	30分

No.1～No.10
応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.11～No.13-2
福祉部局等、防災部局以外も受講対象とすることから、被災者支援業務についても学べるよう単元を追加

No.14～No.15
応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.16～No.18
受講者の受講負担を減らすこと、物的応援の単元であることからオンデマンド講義から除外

報告〔和歌山県②〕演習カリキュラム

研修のテーマ　受援体制（応援職員・支援物資の受入、受援計画、被災地支援 等）

オンデマンド講義：7/7（月）～ 8/5（火）　演習：8/6（水）集合形式　コーディネーター：越山委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- 南海トラフ地震など大規模災害の発生に備え、応援・受援時に発生する業務内容や、そのための体制構築について、講義で学び、演習により習熟を高めたい。

受援と応援それぞれの災害対応経験者から、実体験を踏まえた受援・応援業務の実態と課題を学ぶ。
講義を通じて、経験談や業務に対する受講者からの質問に回答することで、業務等への理解を深める。

災害時の応援経験者の体験談を通じて、班ごとに知見・教訓を整理し、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。

南海トラフ地震発生後の状況をふまえ、応援要請時に必要な事項、応援受入れ時に必要な事項をそれぞれ検討し、市町村の役割と県の役割を学ぶ。

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
10:00～10:05	- ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	10分	（事務局）	
10:05～10:35	1 **【講演】事例から学ぶ受援の実態と課題**	30分	奥能登広域圏事務組合 佐藤令	災害時の受援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、受援の実態と課題を学ぶ。
10:35～11:05	2 **【講演】事例から学ぶ応援の実態と課題**	30分	愛知県	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、応援の実態と課題を学ぶ。
11:15～11:45	3 **質疑応答**	30分	関西大学 越山健治	講演への質疑応答を通じて、応援・受援の課題や対応策、取り組みへの理解を深める。
12:45～14:00	4 **【ｴｽﾉｸﾞﾗﾌｨｰ演習】災害対応過程と態度を学ぶ**	75分	ｻｲｴﾝｽｸﾗﾌﾄ 瀧波崇	災害時の応援を経験した自治体職員の体験談を教材として読み込み、教材から読み取った知見・教訓をグループワークで整理することで、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。
14:10～15:35	5 **【演習】受援業務における初動対応演習**	85分	ｻｲｴﾝｽｸﾗﾌﾄ 元谷豊	災害発生初動期の応援要請と応援受入れのそれぞれの状況で検討する演習を通じて、応援要請や応援受入れ時の市町村の役割と、市町村による応援要請における県の役割を学ぶ。
15:40～16:25	6 **【演習】全体討論（ふりかえり）**	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:25～16:30	- 閉講	10分	（事務局）	

報告〔和歌山県③〕演習実施レポート

研修のテーマ　受援体制（応援職員・支援物資の受入、受援計画、被災地支援 等）

オンデマンド講義：7/7（月）～ 8/5（火）　演習：8/6（水）集合形式　コーディネーター：越山委員

時　間	単元名	実施内容	
10:00 ～10:05	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ		
10:05 ～10:35	**【講演】 事例から学ぶ受援の実態と課題**	受援側の視点として奥能登広域圏事務組合より、令和6年能登半島地震での輪島市における受援体制の実態や課題と改善案等の講演が行われた。	
10:35 ～11:05	**【講演】 事例から学ぶ応援の実態と課題**	応援側の視点として愛知県より、令和6年能登半島地震の志賀町への応援時の支援内容、支援を通じた気づき等について講演が行われた。	
11:15 ～11:50	**質疑応答**	講演内容や受援応援について、受講者から質問を募り、講師に回答いただくことで受援応援業務への理解を深めた。	
12:50 ～13:55	**【ｴｽﾉｸﾞﾗﾌｨｰ演習】 災害対応過程と態度を学ぶ**	令和6年能登半島地震にて石川県輪島市の災害対応支援を行った職員の経験談を元に、活動上のポイントや課題等を班ごとに整理し、災害発生前後の活動や行政の対応の流れ、災害対応上の課題や活動上のポイントの理解を図った。	
14:05 ～15:40	**【演習】 受援業務における初動対応演習**	南海トラフ地震が発生し沿岸部には津波が到達したという状況で、災害対策本部等の設置場所や応援要請が必要な業務、応援受入れに必要な準備を検討し、応援要請や受入れに至る活動の流れと市町村の役割、必要な準備への理解を図った。	
15:45 ～16:40	**【演習】 全体討論 （ふりかえり）**	研修を受講したねらい、研修での気づき・学び、持ち帰って自分の組織や業務に活かしていきたいことをふりかえって整理し、受講者全体に学びを共有した。	
16:40 ～16:50	閉講		

ふりかえり結果

●概括●

1. 全体として多岐にわたり詰め込みすぎのため、限られた時間に合わせてテーマを絞る必要があった。（コーディネーター）（内閣府）
2. オンデマンド講義とリアルタイム研修のインタラクションを入れることで受講者は理解が連動し、未受講者への動機づけになるのではないか（コーディネーター）
3. オンデマンド講義の地方気象台の講義は県の気象理解に有効。（県）
4. オンデマンド講義（必須4.7時間）が長すぎるとの苦情は特段なし。現場に近い資料で理解しやすかったとの評価。一方で、内容に古いものがあり、最新の制度・議論の更新点を示す仕組み（注意書き・補遺等）の整備が望ましい。（県）（コーディネーター）
5. 和歌山ならではの地域特性を組み込み、ロールプレイやアウトプットに県の地域性が表れる設計にするとよかった。（コーディネーター）
6. 市町村が主対象のため、災害対応経験者の講話は大きな示唆があった。講演の時間配分を拡充する、２人の講演内容の時系列を合わせる等の改善点はあるが受講者側の理解は進んだ。（県）
7. 講師陣に加え、自衛隊・海保など平時接点の少ない層と交流が進んだ。庁内でも防災部局に限らず幅広い課から参加し、林道活用など多面的なアイデアが生まれた。名刺交換を促すアナウンスも有効で、継続実施が望まれる。（県）（内閣府）（事務局）

●運営●

1. 内閣府からの募集段階で会場に必要な要件の明示が必要。（県）
2. 事務局から県への各種依頼の前倒しが必要。また、事務局が運営を担ったため、県側が“運営を学ぶ”機会が限られた。全体像を共有し、同時並行で進めて検討の時間を確保する必要がある（県）
3. コーディネーターの会場入り時刻など具体情報の共有が遅れた。県・コーディネーター・事務局で、時間に余裕をもって事前に合意・共有したい。（コーディネーター）（事務局）（内閣府）
4. コーディネーターの役割を、当日のゲストなど軽めか、企画段階から関わるか等見直しが必要。（コーディネーター）
5. 受講者に事前課題がある場合は、外的要因があっても読み込めるよう、時間に余裕をもって配布する。（事務局）

報告〔福島県①〕オンデマンド講義カリキュラム

研修のテーマ　応援・受援

オンデマンド講義：7/24（木）～ 8/21（木）　演習：8/22（金）ハイブリッド　コーディネーター：佐藤翔委員（丸谷浩明）

応援・受援のカリキュラム（案）を基に、県の要望等に合わせて次の点を変更した。

No.1～No.4
応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.5
受援を学ぶにあたりBCPの考え方も知っておく必要があることから受講必須で単元を追加

No.6～No.15
応援・受援のカリキュラム（案）を採用
No.10のインフラ復旧は、災害査定のための人的応援を受ける業務であり、土木部局だけでは完了しないことから受講必須に変更

No.16
No.6の単元の内容と重複する部分があることからオンデマンド講義から除外

●：受講必須　◇：受講任意

単元名／講師				時間
災害対応業務全般				
1	防災行政概要	内閣府	◇	20分
2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇	15分
3	防災計画の概要	内閣府	◇	15分
4	地域の災害特性	福島地方気象台	●	60分
BCP				
5	行政のBCP、BCM	東北大学 丸谷浩明	●	50分
応援・受援の基礎知識				
6	地方公共団体間の相互応援と受援体制	内閣府 総務省 大野城市	●	130分
受援対象業務の概要				
7	避難所の開設・運営の内容	内閣府	●	15分
8	災害廃棄物処理の概要	環境省	●	11分
9	被害認定調査・罹災証明書の概要	内閣府	●	6分
10	インフラ復旧の概要	国土交通省	●	15分
11	災害ケースマネジメントの概要	内閣府	◇	16分
物資の調達・輸配送				
12	国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	内閣府	◇	15分
13	救援物資の調達	コメリ災害 対策センター	◇	35分
14	救援物資の輸配送	佐川急便	◇	30分
15	救援物資ロジスティクス演習	内閣府	◇	30分
16	受援体制と受援計画の概要	内閣府	●	15分

報告〔福島県②〕演習カリキュラム

研修のテーマ　応援・受援

オンデマンド講義：7/24（木）～ 8/21（木）　演習：8/22（金）ハイブリッド　コーディネーター：佐藤翔委員（丸谷浩明）

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- 市町村の参加者が受援計画の必要性を理解し計画策定に着手するきっかけになる研修にしたい。

受援と応援それぞれの災害対応経験者から、実体験を踏まえた受援・応援業務の実態と課題を学ぶ。
講演中に、受援計画のポイントとして学んだことをワークシートに書き出す。また、講演ごとに質疑応答を行い、受講者の理解を深める。

福島県が作成した市町村向けの受援計画ひながたについて学び、受援計画についておさらいしてもらう。
１・２限目で学んだことや書き出したポイントと合わせて自組織の受援計画に反映し、グループ内で共有する。

会場・オンライン全体で、受援計画を作成・修正したうえでの新たな疑問・悩みを相談・討論する。

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
09:30～09:40	- オリエンテーション	10分	（事務局）	
09:40～10:45	1 **【講演】事例から学ぶ受援と応援の実態と課題**	65分	福島県	災害時の受援および応援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、受援・応援の実態と課題を学ぶ。
10:55～12:00	2 **【講演】事例から学ぶ応援の実態と課題**	65分	新潟県	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、受援の実態と課題を学ぶ。
13:00～14:40	3 **【演習】受援計画作成演習その①**	100分	福島県 東北大学 佐藤翔輔	災害時の応援を経験した自治体職員の体験談から得た知見・教訓をグループワークで整理することで、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。
14:50～15:50	4 **【演習】受援計画作成演習その②**	60分	東北大学 佐藤翔輔 丸谷浩明	１・２限目の講演および３限目の演習で得た学びを受援計画に落とし込んでうえで質疑応答を行い、受援計画策定のポイントを学ぶ。
16:00～16:40	5 **【演習】ふりかえり**	40分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:40～16:50	- 閉講	10分	（事務局）	

報告〔福島県③〕演習実施レポート

研修のテーマ　応援・受援

オンデマンド講義：7/24（木）～ 8/21（木）　演習：8/22（金）ハイブリッド　コーディネーター：佐藤翔委員（丸谷浩明）

時　間	単元名	実施内容	ふりかえり結果
09:30 ～09:40	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ		
09:40 ～10:45	**【講演】 事例から学ぶ受援と応援の実態と課題**	福島県より、受援時の教訓と経験を活かした応援体制の整備、令和6年能登半島地震の応援時の活動内容と課題等について講演が行われた。	
10:55 ～12:05	**【講演】 事例から学ぶ応援の実態と課題**	新潟県より、「チームにいがた」の枠組みや活動、福島県等への応援時の活動内容と課題等について講演が行われた。	
13:05 ～14:45	**【演習】 受援計画作成演習 その①**	福島県より、福島県内市町村用の受援計画ひな形の説明が行われた。 自組織の受援計画の記載を確認し、午前中の講演での学びを元に記載を充実させ、グループ内で受援計画の改善箇所の共有を図った。	
14:55 ～15:55	**【演習】 受援計画作成演習 その②**	受援計画へ実際に反映したことで生じた疑問や相談事項への質疑応答を会場全体で行い、講師等からの回答を通じて、受援計画作成・改善のポイントへの理解を深めた。	
16:05 ～16:50	**【演習】 ふりかえり**	自分の業務に活かしたいこと、やってみたいことをふりかえって整理し、受講者全体に学びを共有した。	
16:50 ～16:55	閉講		

●概括●

1. 受援計画未策定自治体が計画作成の第一歩を踏み出すという目的は達成。演習中の質問から受援の理解が進んでいることがうかがえ、受講者に何かしら持ち帰ってもらえたと感じた。しかし、受援計画策定が進まない原因が解消されたかは、今後の市町村の進展を確認したい。（県）
2. 受講者の盛り上がりが確認でき、よい研修だと感じた。（内閣府）
3. 開催県＋熟練県の体験講話は内容・バランスとも良かったが、受講者層から市町村の体験講話は必須だった。また、講話の実務のコツ・ポイントと、受援計画の整合が弱かった。（コーディネーター）
4. 一般的に持ち帰り作業になりがちな受援計画の作成・修正部分を研修中に取り組めたことは効果的だった。PC持参も問題なく効果的に使用されていた。修正の進行程度は成果物から要検証。（コーディネーター）
5. 個人ワーク（受援計画の修正・作成）は意図の伝達不足で作業レベルがばらついたため、作業内容や項目の指示を絞り込む必要がある。また、ひな形の事前読み込みやオンライン参加者の聴講状況が不明という問題がある。（サブコーディネーター）
6. 受講者からの疑問に対し、国の事例集・マニュアルに基づく回答を事前に用意しておく必要があった。（事務局）
7. 市町村を「策定／未策定」で班分けしたのは有効。一方で県受講者は、研修内容に即して参加を促すべきだった。（県）
8. 名刺交換・声掛けなど対面研修の効果が顕著で、オンラインでも後半のグループワークでは打ち解け合っており効果が見られた。（県）

●運営●

1. 県の要望を汲み取った企画づくりはありがたく、企画から当日運営の一連の流れを経験することで新しい研修のやり方を学べた。（県）
2. 事務局支援のもと、会場準備～当日運営はスムーズだった。（県）
3. オンライン側のグループワークでファシリテーターに負担が集中した。人数や対応の流れを改善する必要がある。（内閣府）（事務局）
4. フォローアップの具体化（実装指針）
5. 県は市町村へのフォローアップとして受援計画策定の具体的な取組みやポイントを示す必要がある。「実際の受援」を支える手引き・マニュアルを整備するとよい。（コーディネーター）（サブコーディネーター）
6. 開催自治体同士のオブザーバー参加は研修開催するうえでの学びにつながるため、今後も機会拡大が望ましい。（事務局）

報告〔京都府①〕オンデマンド講義カリキュラム

研修のテーマ　応援・受援

オンデマンド講義：8/27（水）～ 9/24（水）　演習：9/25（木）対面　コーディネーター：木村委員

応援・受援のカリキュラム（案）を基に、府の要望等に合わせて次の点を変更した。

No.1～No.4
応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.5・No.6
市町村対象のため、府が市町村職員に基本的に身に着けてもらいたい内容として受講任意で追加

No.7～No.9
南海トラフ地震発生時、「被害確認後応援都府県」に府が指定され府内でも関心が高まっていることから受講任意で単元を追加

No.10～No.18
応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.19～No.20
全体の単元数を減らすことで受講者の負担軽減となるよう、本研修で必須の学びではない単元をオンデマンド講義から除外

●：受講必須　◇：受講任意

	単元名／講師			時間
	災害対応業務全般			
1	防災行政概要	内閣府	◇	20分
2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇	15分
3	防災計画の概要	内閣府	◇	15分
4	地域の災害特性	京都地方気象台	●	60分
5	災害救助法の概要	内閣府	◇	15分
6	災害時の保健・医療・福祉活動と調整の概要	厚労省	◇	20分
	南海トラフ地震			
7	南海トラフ地震の概要	内閣府	◇	15分
8	南海トラフ地震防災対策推進基本計画の概要	内閣府	◇	10分
9	南海トラフ地震の具体計画の概要	内閣府	◇	5分
	応援・受援の基礎知識			
10	受援体制と受援計画の概要	内閣府	●	15分
11	地方公共団体間の相互応援と受援体制	内閣府 総務省 大野城市	●	130分
	受援対象業務の概要			
12	避難所の開設・運営の内容	内閣府	●	15分
13	災害廃棄物処理の概要	環境省	●	10分
14	被害認定調査・罹災証明書の概要	内閣府	●	10分
	物資の調達・輸配送			
15	国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	内閣府	◇	15分
16	救援物資の調達	ｺﾒﾘ災害対策ｾﾝﾀｰ	◇	35分
17	救援物資の輸配送	佐川急便	◇	30分
18	救援物資ロジスティクス演習	内閣府	◇	30分
19	インフラ復旧の概要	国土交通省	◇	15分
20	災害ケースマネジメントの概要	内閣府	◇	15分

報告〔京都府②〕演習カリキュラム

研修のテーマ　応援・受援

オンデマンド講義：8/27（水）～ 9/24（水）　演習：9/25（木）対面　コーディネーター：木村委員

演習カリキュラムの検討

府からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- 令和６年能登半島地震での対応もふまえて課題意識を持っている近隣自治体間の応援・受援について、講義・演習を通じて学ぶとともに、近隣自治体間で顔の見える関係づくりを行いたい。

災害時の受援経験者から、実体験を踏まえた受援調整業務の実態と課題を学ぶ。
また、会場からの質疑応答をコメントシートで行い、受講者の理解を深める。

災害時の応援経験者の体験談を通じて、業務の内容や活動上の調整、応援者の目線からみた受援側の課題を教材から読み取り、グループワークを通じて各人の学びを整理し共有することで理解を深める。

花折断層での被害想定を元に、非被災市町村を「応援側」、被災市町村を「受援側」にわけて演習を行うことで、京都府全体の受援体制を考える機会とする。

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
10:30 ～10:35	- ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	5分	（事務局）	
10:35 ～10:50	- あいさつ	15分	京都府	直近の話題を盛り込んだ受講者へのあいさつ。
10:50 ～12:00	**1 【講演】事例から学ぶ受援の実態と課題**	70分	熊本市	熊本地震時に、応援受け入れの窓口対応を経験した自治体職員の方から、応援受入れや調整にあたっての活動や業務、受入れ時の苦労や教訓を学ぶ。
13:00 ～14:15	**2 【エスノグラフィー演習】災害対応過程と態度を学ぶ**	75分	ｻｲｴﾝｽｸﾗﾌﾄ 瀧波崇	令和6年能登半島地震に応援派遣された三重県いなべ市の職員の体験談（エスノグラフィー）を教材に、応援派遣された職員の視点から応援側・受援側の対応の流れや課題、活動上のポイントを学ぶ。
14:25 ～15:45	**3 【演習】受援業務における初動対応演習**	80分	ｻｲｴﾝｽｸﾗﾌﾄ 元谷豊	花折断層での地震発生初動期を対象に、この時期に発生する受援応援業務について検討し、市町村間の受援応援の進め方や、受援応援にあたり必要な準備を学ぶ。
15:50 ～16:25	**4 ふりかえり**	35分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:25 ～16:30	- (閉講)	5分	（事務局）	

報告〔京都府③〕演習実施レポート

研修のテーマ　応援・受援

オンデマンド講義：8/27（水）～ 9/24（水）　演習：9/25（木）対面　コーディネーター：木村委員

時　間	単元名	実施内容
10:30 ～10:35	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	
10:35 ～10:55	**あいさつ**	府の危機管理監から、直近の話題提供として、府の災害対応や平時の取組みの紹介が行われた。
10:55 ～12:00	**【講演】 事例から学ぶ受援の実態と課題**	平成28年熊本地震での熊本市における受援体制の実態、課題と教訓を踏まえた対策等の講演が行われた。講演後、受講者が講演中に書き留めた質問を回収し、講演者に回答いただくことで受援業務への理解を深めた。
13:00 ～14:15	**【ｴｽﾉｸﾞﾗﾌｨｰ演習】 災害対応過程と態度を学ぶ**	令和6年能登半島地震にて石川県輪島市の災害対応支援を行った職員の経験談を元に、業務の内容や活動上の調整、応援者の目線からみた受援側の課題等を班ごとに整理し、応援時の活動や行政の対応の流れ、対応上の課題や活動上のポイントの理解を図った。
14:25 ～15:45	**【演習】 受援業務における初動対応演習**	花折断層での地震発生時の受援の必要性と応援の受入れ、または応援の可能性や派遣時の調整・準備を次のグループに分かれて検討した。 ・受援検討G：被災市町村 ・応援検討G：非被災市町村 ・受援応援調整G：京都府 ・広域応援検討G：関西広域連合管内 演習を通じて府全体の受援体制が確認でき、市町村間の受援応援の進め方や必要な準備への理解を図った。
15:50 ～16:25	**ふりかえり**	自分の業務に活かしたいこと、やってみたいことをふりかえって整理し、受講者全体に学びを共有した。
16:25 ～16:30	閉講	

ふりかえり結果

●概括●

1. 熊本市の事例講演やエスノグラフィー演習を含むプログラム構成は、実務者の経験談を踏まえ「我が事」として考える流れがよく、学びが深かった。（内閣府）（事務局）
2. 受援・応援に関係しない部署や経験の浅い職員には難易度が高いテーマだった。この状況を汲み取り、事実や必要性を知ることや、コミュニケーションやネットワーク構築を目標にプログラムを変えながら進行できたのはよかった。（府）（コーディネーター）
3. 開催自治体の災害対応の中核を担う危機管理監が冒頭で挨拶を行ったことで、受講者にとって「これは府として主体的に取り組むべき課題である」との意識が芽生えた。挨拶時の資料は、投影だけでなく配布も必要だった。（府）（コーディネーター）（事務局）
4. １限目の講演は、現場の実態や困難さを理解できる内容で非常に良かった。写真や事実ベースの説明が効果的で、危機意識を高める役割を果たした。（府）（コーディネーター）（内閣府）
5. 挙手制の質問だと手が挙がりにくいが、コメントシートにより受講者から能動的に質問が挙げられ、講演者から色々な話が引き出せた。（府）（コーディネーター）（内閣府）（事務局）
6. ３限目の演習では、午前中の様子をみてコーディネーターから助言があり、検討中に府や関西広域連合の班が市町村の班と直接やり取りする方法に変更したところ非常に盛り上がった。このやり方を他の地域研修でも提供できるとよい。（内閣府）（事務局）
7. 名刺交換や班替えにより、普段接点のない自治体間で交流が活発に行われ、ネットワーク構築が非常に良好だった。講師やコーディネーターの働きかけも効果的だった。（府）（コーディネーター）（内閣府）（事務局）
8. 演習を通じて災害を疑似体験し、災害対応の難しさや危機感を実感できた。非常に学びが多く、受講者の議論も活発だった。今後は人数を増やして展開したい。（府）

●運営●

1. 府からの要望がカリキュラムにうまくおさまっていた。（府）
2. 前日に最終打合せができてよかった。（内閣府）
3. 研修日程をもっと早くに府から市町村に周知するとよかった。（府）
4. 講師決定や全体準備をもう一週間程早める必要がある。講師候補のリスト化や講師との事前調整等の見直しが必要。（内閣府）（事務局）

報告〔山形県①〕オンデマンド講義カリキュラム

研修のテーマ　災害対策本部（初動対応）

オンデマンド講義：9/17（水）～ 10/5（日）　演習：10/6（月）対面　コーディネーター：田村委員

県の要望や演習のカリキュラムに合わせてオンデマンド講義のカリキュラムを構成した。

No.1-1～No.1-4
災害対策本部（初動対応）として基本となる知識を学ぶための単元として追加

No.2-1~No.5
演習で実施する検討する業務の基本となる知識を学ぶための単元として追加

●：受講必須　◇：受講任意

単元名／講師				時間
災害対策本部が行う対策立案プロセス				
1-1	災害対策本部の活動サイクル	京都大学　林　春男	●	15分
1-2	当面の対応計画の策定		●	15分
1-3	当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理		●	15分
1-4	災害対策本部会議の進め方		●	15分
避難所運営等 避難生活支援				
2-1	全体像	・新潟大学　田村　圭子 ・ひょうご震災記念21世紀研究機構　山本　晋吾	●	5分
2-2	避難所の運営サイクルの確立		●	4分
2-3	情報の取得・管理・共有		●	3分
2-4	食料・物資管理		●	5分
2-5	トイレの確保・管理		●	5分
2-6	衛生的な環境の維持		●	4分
2-7	避難者の健康管理		●	5分
2-8	寝床の改善		●	3分
災害廃棄物処理				
3-1	災害廃棄物処理の概要	環境省	●	10分
3-2	災害廃棄物処理　自治体における発災直後の対応	環境省	●	5分
3-3	災害廃棄物処理（事例）	常総市		40分
生活再建支援業務				
4-1	生活再建業務の全体像	新潟大学　田村　圭子	●	30分
4-2	住家の被害認定調査の概要	民間企業講師		25分
安否確認業務				
5	安否確認業務	新潟大学　田村　圭子	●	15分

報告〔山形県②〕演習カリキュラム

研修のテーマ　災害対策本部（初動対応）

オンデマンド講義：9/17（水）～ 10/5（日）　演習：10/6（月）対面　コーディネーター：田村委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- 発災後５日間程度における災害対応（災害対策本部での情報収集・指揮統制・災害救助・被災者生活再建支援・避難所運営等）等、災害発生後に市町村が行うべき業務の全体像を講義で学ぶとともに、演習により体験したい。

地元気象台より山形県で発生する災害の特徴や防災気象情報等を学ぶ

東北地方整備局より山形県で発生する河川氾濫や土砂災害の特徴等を学ぶ

風水害で災害対策本部に切り替わるぐらいのフェーズを対象とする
安否確認、避難者対応、生活再建支援、災害廃棄物対応の業務について、状況見積もり、業務の対応方針検討、役割分担・体制検討、応援・受援調整、災対本部資料とりまとめを段階的に検討する

本日の演習をふりかえり各班に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
09:30 ～09:40	- （オリエンテーション）	10分	（事務局）	
09:40 ～10:10	1 **【講義】山形県におけるリスク①**	30分	山形地方気象台	山形県に想定されるリスクを学ぶ（気象台の立場から）。
10:10 ～10:40	2 **【講義】山形県におけるリスク②**	30分	東北地方整備局	山形県に想定されるリスクを学ぶ（地方整備局の立場から）。
10:50 ～12:00	3 **【演習①】災害対策本部における初動対応研修①**	70分	新潟大学 田村圭子	災害対策本部における状況見積もりの考え方について学ぶ。
13:00 ～16:20	4 **【演習②】災害対策本部における初動対応研修②**	200分	新潟大学 田村圭子	災害対策本部を中心とした対応業務方針の考え方について学ぶ。
16:20 ～16:50	5 **ふりかえり**	30分	新潟大学 田村圭子	研修を通じて学んだことをふりかえり、今後の本部体制について活かすべきポイントを学ぶ。
16:50 ～17:00	- （閉講）	10分	（事務局）	

報告〔山形県③〕演習実施レポート

研修のテーマ　災害対策本部（初動対応）

オンデマンド講義：9/17（水）～ 10/5（日）　演習：10/6（月）対面　コーディネーター：田村委員

時　間	単元名		実施内容	ふりかえり結果
09:30 ～09:35	オリエンテーション			●**概括**● 1. 県の要望を汲んだカリキュラムであり、講義の後に演習という一日の流れが良く充実していた。（県）（内閣府） 2. 気象台や国交省の講義は、講師との事前打合せにより質が高かった。道路などの観点を加えて県として学ぶべき基礎知識が蓄積されていくとよい。（コーディネーター）（内閣府） 3. 自地域を災害区域として設定することで、リアルな想定が可能となり、状況付与に含まれない情報についても受講者が地域の知識を持ち寄り推測していた。川沿いに破堤、土砂災害等のパターンのシナリオをリアルに作れる技術が蓄積されるとよい。（県）（コーディネーター） 4. 災害想定に浸水継続時間や浸水想定区域外に避難場所があるなど、細かい要素を加えてはどうか。（内閣府） 5. 演習の検討時、災害経験者やベテランからの意見や話から経験の浅い受講者へ知見が共有されていて有意義だった。（県）（内閣府） 6. 助言をきっかけに議論が進み、全員で話し合う姿勢がみられた。今後もファシリテーターを付ける形がよい。（内閣府）（ファシリテーター） ●**運営**● 1. 県から多大なご支援をいただいたうえに受講者も協力的で、大きなトラブルなく研修が進行できた。（コーディネーター）（事務局） 2. 人数の多い班では議論に参加できない人がいたため、班分けの工夫が必要。（県） 3. ばらけて貼り出しても識別ができるよう、ワークシートにヘッダーなどが付いているとよいのではないか。（ファシリテーター） 4. 講師ごとにマイクやスライド操作テストが必要。手順をマニュアル化してはどうか。（コーディネーター） 5. 事前の決定事項であった「全体討論という言葉を使わない」ことが反映されていなかった。（事務局）
09:35 ～10:00	**【講義】 山形県におけるリスク①**		山形地方気象台から、近年山形で発生した大雨・土砂災害の概要、新しい防災気象情報、キキクルの紹介、地域支援の取組みの紹介等の講義が行われた。	
10:00 ～10:40	**【講義】 山形県におけるリスク②**		東北地方整備局から、山形の主な河川の概要、近年山形で発生した大雨災害時の水位の状況、平時の訓練等の取組み、土砂災害の定義や発生状況等の講義が行われた。	
10:50 ～11:25	**【演習】災害対策本部における初動対応研修**	ワーク０:災害対策本部を知る	ワーク０では、災害対策本部の位置づけや機能、災害救助法適用の重要性、新潟県中越沖地震時の新潟県の災害対策本部の事例を元に本部の対応等の基本的な知識を学んだ。 続いて、山形県内の様々な場所で線状降水帯が発生し、各地で水害や土砂災害が発生しうる状況にあるという前提のなか、ワークシートを用いて次の各ワークを通じて災害対策本部で検討・決定すべき事項の理解を図った。 ワーク１:被災状況を見積もる ワーク２:安否確認を実施する ワーク３:避難者対応を実施する ワーク４:生活再建支援業務を実施する ワーク５:災害廃棄物対応を実施する ワーク６では、ワーク１～５で把握・検討した現状や今後の見通し等を整理し、災害対策本部で首長役に報告する形式で発表を行った。	
11:25 ～11:50		ワーク１:被災状況を見積もる		
12:50 ～13:50		ワーク２:安否確認を実施する		
13:50 ～14:30		ワーク３:避難者対応を実施する		
14:45 ～15:30		ワーク４:生活再建支援業務を実施する ／ワーク５:災害廃棄物対応を実施する		
15:30 ～17:00		ワーク６:災害対策本部に報告する		
17:00 ～17:05	閉講			

報告〔徳島県①〕オンデマンド講義カリキュラム

研修のテーマ　災害対策本部（情報収集・分析）

オンデマンド講義：10/9（木）～ 11/5（水）　演習：11/6（木）対面　コーディネーター：紅谷委員

災害対策本部（情報収集・分析）のカリキュラム（案）をすべて採用のうえ、県の要望等に合わせて次のものを追加した。

●：受講必須　◇：受講任意

単元名／講師				時間
災害対応業務全般				
1	防災行政概要	内閣府	●	20分
2	災害法体系と災害対策基本の概要	内閣府	●	15分
3	防災計画の概要	内閣府	●	15分
4	地域の災害特性	徳島地方気象台	◇	60分
災害対策本部が行う対策立案プロセス				
5-1	災害対策本部の活動サイクル	京都大学　林　春男	●	15分
5-2	当面の対応計画の策定		●	10分
5-3	当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理		●	15分
5-4	災害対策本部会議の進め方		●	15分
状況認識の統一				
6	地図による状況認識の統一とISUTの試み	・防災科研 ・内閣府	◇	70分
指揮統制総論（世界標準に則した指揮統制）				
7-1	災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる	京都大学　林　春男	◇	5分
7-2	世界標準に則した災害対応業務が５つの役割で構成されていることを理解できる		◇	10分
7-3	市町村が中心になって活躍する災害対応業務６＋１を理解できる		●	10分
7-4	平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換することができる（ICS準拠）		◇	5分
参謀にとっての災害対策本部運営				
8-1	災害対策本部を指揮するとは	元　岩手県防災危機管理監 越野　修三	◇	15分
8-2	トップと参謀の役割		◇	15分
8-3	トップの意思決定・指揮を補佐する参謀機能の強化		◇	15分
8-4	情報処理と状況判断		◇	15分

No.1～No.8-4
災害対策本部（情報収集・分析）のカリキュラム（案）を採用

※追加講義は次ページに掲載

報告〔徳島県②〕オンデマンド講義カリキュラム(つづき)

研修のテーマ　災害対策本部（情報収集・分析）

オンデマンド講義：10/9（木）～ 11/5（水）　演習：11/6（木）対面　コーディネーター：紅谷委員

●：受講必須　◇：受講任意

単元名／講師				時間
被災者支援コースより				
9	被災者支援総論	新潟大学 田村　圭子	●	50分
10	災害救助法と被災者生活再建支援法	内閣府	◇	34分
			◇	18分
11	要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援	跡見学園女子大学 鍵屋　一	◇	48分
12	個別避難計画の作成	内閣府	◇	29分
		跡見学園女子大学 鍵屋　一	◇	69分
防災基礎コースより				
13	大規模災害時における政府の初動対応	内閣府	◇	9分
14	内閣府（防災）における防災人材育成の概要	内閣府	◇	5分
15	地区防災計画と住民主体の災害への備えの概要	内閣府	◇	16分
16	避難行動要支援者の避難支援	内閣府	◇	16分
17	「避難情報に関するガイドライン」の経緯	静岡大学 牛山　素行	◇	14分
18	避難行動の概要		●	18分
19	防災気象情報の概要	気象庁	●	16分
20	避難情報の発令判断・伝達等	内閣府	◇	14分
21	災害救助法の概要	内閣府	●	14分
22	救助・捜索活動における連携の概要	消防庁	◇	15分
23	災害時の保健・医療・福祉活動と調整の概要	厚労省	◇	21分
24	国としての物資及び災害時における物資の調達・輸送	内閣府	◇	13分
25	避難所の開設・運営の概要	内閣府	●	15分

単元名／講師				時間
26	災害廃棄物処理の概要	環境省	◇	11分
27	被害認定調査・罹災証明書の概要	内閣府	◇	6分
28	仮設住宅の供給の概要	内閣府	◇	16分
29	災害ケースマネジメントの概要	内閣府	◇	15分
30	受援体制と受援計画の概要	内閣府	●	15分
31	応急対策職員派遣制度等の概要	総務省	◇	15分
32-1	地震・津波のメカニズム	関西大学 林　能成	◇	13分
32-2	地震・津波災害による被害		◇	15分
32-3	地震・津波の観測・予測情報		◇	19分
32-4	地震・津波の防災対策の基礎		◇	16分
33	南海トラフ地震の概要	内閣府	●	14分
34	南海トラフ地震防災対策推進基本計画の概要	内閣府	◇	11分
35	南海トラフ地震の具体計画の概要	内閣府	◇	6分
災害への備えコースより				
36	【一般管理】「災害への備え」総論	東北大学 丸谷　浩明	◇	51分
37	【一般管理】地域の自主的な防災活動		◇	14分
38	【実務担当】「災害への備え」総論		◇	50分
39	【実務担当】地域の自主的な防災活動		◇	12分
警報避難コースより				
40	【共通】 警報避難総論	立命館大学 井ノ口　宗成	●	58分
41	【共通】 警報等の種類と内容	気象庁	◇	55分
42-1	【共通】 南海トラフ地震臨時情報	内閣府	●	16分
42-2		気象庁	●	19分
42-3		内閣府	●	24分
42-4		内閣府	●	13分

No.9～No.42　幅広い対象者に対して視聴を推奨したい動画を網羅するため単元を追加

報告〔徳島県③〕演習カリキュラム

研修のテーマ　災害対策本部（情報収集・分析）

オンデマンド講義：10/9（木）～ 11/5（水）　演習：11/6（木）対面　コーディネーター：紅谷委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- 災対本部運営（初動対応）をメインに、個別避難計画（専門家の講義）を希望

個別避難計画の策定に関するポイントや、危機管理部局と福祉部局との連携の重要性等を学ぶ

災害対応経験から得られた教訓と、その教訓をどのように自組織の災害対策本部体制に反映し整備したかを学ぶ

災害対策本部における情報収集・分析業務の基本的な流れや活動上のポイント・留意点を学ぶ

南海トラフ地震の発災直後、最低限しか情報が入らない状況を想定し、優先すべき業務やその業務に必要な情報の内容と入手方法、情報収集における課題と対策を検討する

南海トラフ地震の発生から2～３日後を想定し、役割に応じた業務や必要な情報の選定・整理を行い、実施すべき業務と必要な情報の入手方法、業務の進捗確認方法を検討する

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらうことでお互いの気づきや疑問点を共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
09:30 ～09:40	- （オリエンテーション）	10分	（事務局）	
09:40 ～10:30	**1 【講義】個別避難計画**	50分	防災科研 大塚理加	個別避難計画の作成にあたって危機管理部局と福祉部局との連携の重要性を学ぶ。
10:40 ～11:30	**2 【講演】 事例から学ぶ災害対策本部の情報収集・分析の実態と課題**	50分	吹田市 有吉恭子	災害対策本部の情報収集・分析業務を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、業務の課題を学ぶ。
12:30 ～13:10	**3 【演習】 災害対策本部の情報収集・分析の流れと活動上のポイント**	40分	兵庫県立大学 紅谷昇平	災害対策本部における情報収集・分析の業務の概要と基本的な業務の流れ、活動上のポイント・留意点を学ぶ。
13:10 ～14:20	**4 【演習】 災害対策本部における情報整理演習**	70分	兵庫県立大学 紅谷昇平	地震発生直後の最低限の情報を元に優先する業務、業務の実施に必要な情報、情報の入手先、情報収集にあたっての課題と事前の対策を学ぶ。
14:30 ～15:50	**5 【演習】 災害対策本部における情報分析・対策立案演習**	80分	兵庫県立大学 紅谷昇平	地震発生から３日後の状況から、役割ごとに必要な業務や情報を選定・整理し、実施すべき業務と必要な情報の入手方法を学ぶ。
16:00 ～16:50	**6 ふりかえり**	50分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	（事務局）	

報告〔徳島県④〕演習実施レポート

研修のテーマ　災害対策本部（情報収集・分析）

オンデマンド講義：10/9（木）～ 11/5（水）　演習：11/6（木）対面　コーディネーター：紅谷委員

時　間	単元名	実施内容	
09:30 ～09:40	オリエンテーション		
09:40 ～10:30	**【講義】 個別避難計画**	個別避難計画の対象者・支援者・避難先・担当部局とその役割に関する課題や、危機管理部局と福祉部局との連携の進め方の講義が行われた。	
10:40 ～11:30	**【講演】 事例から学ぶ災害対策本部の情報収集・分析の実態と課題**	能登半島地震時の輪島市災害対策本部で発生した情報収集・分析に関する問題とその対応、被災経験を踏まえた吹田市や輪島市での取り組み事例や課題解決のヒントの講義が行われた。	
12:30 ～13:10	**【演習】 災害対策本部の情報収集・分析の流れと活動上のポイント**	災害対策本部における基本的な知識として、情報の流れ、情報の整理・共有方法、状況予測と情報の分析・統合の考え方等の活動上のポイント・留意点の講義が行われた。	
13:10 ～14:20	**【演習】 災害対策本部における情報整理演習**	次の役割に分かれて演習を実施した。 【県】作戦立案班、情報収集・分析班、支部班／【市町村】本部統括調整班、被災者支援班 最初の演習では、南海トラフ地震の発生直後（30分後）の最低限または不確実・不正確な情報から被災状況を想定し、優先度の高い業務の検討と、業務に必要な対応や情報を検討した。 次の演習では、地震発生の２～３日後を想定し、大量の情報のなかから、役割ごとの優先業務に必要な情報を取捨選択し、不足する情報を積極的に取りに行く方法を検討した。	
14:30 ～15:55	**【演習】 災害対策本部における情報分析・対策立案演習**		
16:05 ～16:55	**ふりかえり**	自分の業務に活かしたいこと、わからなかったこと、疑問点を整理し、受講者全体に学びを共有した。	
16:55 ～17:00	閉講		

ふりかえり結果

●概括●

1. 企画段階から県が主体的に関与し、内容も充実している非常に良い研修であり、テーマ「災害対策本部（情報収集・分析）」として他地域でも実施を望む声が出る可能性がある。（内閣府）
2. 引き続き次年度も地域研修に応募したい。（県）
3. 有吉講師や大塚講師の講義は非常に有意義で、受講者の反応も良かった。（県）（内閣府）（コーディネーター）
4. 大塚講師の個別避難計画の講義により保健福祉部局と危機管理部局との連携の意識が高まった。（県）
5. 一年前から県の災害対策本部室を常設化していたが、有吉講師の講義によりその価値を認識できた。（県）
6. 事前相談をふまえ、有吉講師が、令和6年能登半島地震の経験に加えて吹田市における「断らない姿勢」等を講義内容に含める調整をしていただけて非常に良かった。（コーディネーター）
7. 細かい状況設定での図上訓練は初めての経験で、必要な情報の選別や「情報を取りに行く姿勢」を学ぶ良い機会となった。大規模災害経験がない徳島県にとって、膨大な情報を処理する訓練は非常に有益だった。（県）

●運営●

1. オンライン登壇の講師の音声が聞こえづらいトラブルがあったため、今後は、スピーカーなどの機材の準備や、音声について事前に県にも確認してもらう等の改善を図る。（内閣府）（事務局）
2. 印刷データ共有の遅れにより県側に負担が発生したため改善を図る。（事務局）
3. 班ごとに状況付与の量のバランスに課題。理想は班ごとに異なる状況付与だが教材作成の負担が大きくなるため、今後どこまでカスタマイズするかの考え方に関わる重要な点と感じた。（コーディネーター）
4. 名刺交換や講師との交流が少なく、ネットワーク構築が弱かった。演習外にアイスブレイクのような交流の場を設けると良かったのではないか。（県）（内閣府）（コーディネーター）
5. オンデマンド講義の視聴期間は長いほどありがたい。（県）